

- ★日高の軽種馬育成調教場はこの10月で開場20周年を迎えることができました。1日の平均利用頭数で見ると、初年度は50頭程だったのが、現在では500頭前後の馬達が毎日トレーニングに励んでおります。この西舎地区は生産牧場地帯でしたが、当調教場の開場以降、育成馬厩舎が増え、馬が増え、それに伴い人も増え、浦河町内においては短期間で著しい変化を遂げた珍しい地区となりました。これまでに利用馬から中央競馬のG1馬を21頭輩出し、31勝を収めております。今後も施設管理等に万全をはかってまいりますので、これからもさらなるご利用をお願いいたします。
- ★当センターの育成調教技術者養成研修生は入講して半年が過ぎ、夏から秋にかけ通常の日課に加え、ホッカイドウ競馬開催見学・民間牧場での牧場実習・JRA育成馬での馴致実習等を実施、これらの貴重な体験をもとに視野も広がり、充実した日々を送っております。また、当研修事業の理解を深めていただくため、今年の夏も体験入学会を3回実施しました。来年度の研修生の応募は10月18日が締め切りです、多数の応募をお待ちしております。 [Y. H.]
- ★今回の「海外の馬最新情報」は、今までの文献紹介とは趣を異にして、実際のアメリカの臨床現場、オハイオ州立大学の博士研究員として整形外科分野で活躍されてこられた石原章和先生に、骨折の最新治療法について執筆してもらいました。今後も、屈腱炎、繫靭帯炎…など、シリーズで連載していただく予定になっています。また、この4月より石原先生は母校の麻布大学で教鞭をとられており、新天地での慣れない仕事、アメリカからの引越し、新婚生活と本当に多忙の中、私の催促にもめげず寄稿していただき、有り難うございました。
- ★93号が皆様のお手元に届く頃には、凱旋門賞の結果が出ていることと思いますが、「調査研究」では、ロンシャン競馬場での雪辱に期待のかかるオルフェヴル号と産駒に雪辱を託すディーブインパクト号の走り方の違いについて、JRA総研の高橋敏之氏にわかりやすく解説していただきました。今年こそはと期待するとともに、両馬が怪我なく無事に帰国し、日本での再戦が非常に楽しみです。 [Y. F.]

## BTC ニュース 2013年 第93号

発行日：平成25年10月1日

発行：公益財団法人 軽種馬育成調教センター 〒183-0024 東京都府中市日吉町1-1 東京競馬場内  
TEL 042 (358) 1173 (代) FAX 042 (358) 1174 ●ホームページ <http://www.b-t-c.or.jp>

編集責任者：杉本 修 編集：藤井 良和

制作・印刷：西谷印刷株式会社

〒135-0022 東京都江東区三好2-1-4 TEL 03 (3630) 2007